

＜仮訳＞  
**国際原子力エネルギー協力フレームワーク(IFNEC)**  
**第8回執行委員会会合共同声明**  
**フランス共和国パリ**  
**2017年11月9日**

IFNEC の執行委員会は、年次会合を 2017 年 11 月 9 日、フランス共和国のパリにおいて開催した。21 参加国、4 オブザーバー国、4 オブザーバー機関の代表者が、IFNEC に係わる議題を討議するために会し、フランス共和国の議長国としての労に対し深甚なる謝意を表した。また、NEA に対して、IFNEC 運営グループ会合、基盤整備作業部会会合、燃料供給サービス作業部会会合、そして 11 月 7 日－8 日に開催された「グローバル・サプライチェーン：需要国との対話会議」開催の尽力に謝意を表した。

IFNEC の使命は、原子力の平和利用を有効かつ高水準な安全、セキュリティ及び核不拡散に対応した方法で実現するため、参加国が協力して相互に有益なアプローチを追及する場を提供することにある。参加国は自国の権利を損なうことなく、自発的に努力を共にし、経済的に利する原子力の平和的な利用の恩恵を享受する。

執行委員会が認識しているのは、多くの国で原子力が担う重要な役割は、信頼性があり、強靭性があり、クリーンであり、そして電力供給の長期的資源であるということであり、また、この点について、原子力発電所と核燃料サイクル技術の改善により、一層貢献度を増すべ潜在的可能性があるということである。執行委員会は、また、競争の増す市場において原子力利用に係わるコストの削減といった課題にも注目してきた。

執行委員会は、IFNEC を構成する 34 参加国、31 オブザーバー国、そして 4 オブザーバー国際機関(IAEA, OECD/NEA, Euratom, Generation IV International Forum)が、情報を共有し、教訓を活用し、IAEA や OECD/NEA と協力して活動が重複することなく、相乗効果を得られるように、相互に有益な形で継続して協力することを奨励する。

執行委員会は、IFNEC が取り組む現行の活動分野を支持する。すなわち、需給国関係、原子力プロジェクトに係わるファイナンス、電力市場構造の最適化、グローバル・サプライチェーン問題、小型原子炉など設計上の選択肢の拡大、熟練労働力に代表される基盤整備の確立、使用済燃料の多国間処理と他の代わる手段の更なる研究、そして原子力需給国共通の課題に対する包括的かつ効果的な取り組みに関するステークホルダーの係わりを促進する分野である。

執行委員会は、IFNEC が前述の課題に取り組むため、組織され、開催された以下に挙げる活動は特筆すべきものであると認める。

- 2017 年 5 月ルーマニアが主催した「資源及び格差」に関するワークショップ：「核セキュリティに関する企業側からの視点」、「燃料供給サービス部会が運営した放射性廃棄物の管理に対するステークホルダーの係わり」

また、フランスのパリにおいて、NEA 主催による次の会議も同様に特筆すべきものである。

- 2017 年 6 月に開催された基盤整備作業部会、燃料供給サービス作業部会、アドホック需給国関係会合。
- 
- 2017 年 6 月開催の運営グループ会合。
- 2017 年 11 月開催の基盤整備作業部会会合、燃料供給サービス部会会合。
- 2017 年 11 月に開催された「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション：需要国との対話会議」。
- 2017 年 11 月開催の運営グループ会合。

執行委員会は運営グループ議長の円滑な指揮移転を評価する。長年同グループ議長を務めたエドワード・マクギネス氏が議長の役割をフリアン・ガダーノ氏に譲り、同議長は今後運営グループの議長を務め、作業部会の活動を支援する。執行委員会はエドワード・マクギネス氏の果たした業績を評価し、同グループの名誉議長として推薦する。

執行委員会は、新しく創設されたアドホック需給国関係グループの活動を評価する。同グループは 2016 年 10 月にブエノスアイレスで開催された執行委員会の後、活動を開始した。アドホック・グループは、需給国関係、協力と連携の可能な分野、そして需給国関係の改善に資する機会提供に注力し、集中的に計画を実施した。需給国関係グループは、「グローバル・サプライチェーンとローカライゼーション：需要国側との対話」会議を 2017 年 11 月 7 日-8 日にパリで組織し、IFNEC に需給国関係に関する包括的な理解を提供した。執行委員会は、同会議の成功を評価し、また、グループの綱領に規定される議題に継続して取り組むべきだとする参加数か国による意見を評価する。

執行委員会は、今期において、幅広く有益な一連の活動を成し遂げた運営グループ議長、また、燃料供給サービス作業部会、基盤整備作業部会、アドホック・グループそれぞれの共同議長の業績を認める。執行委員会は、運営グループと作業部会の優れた活動を称え、参加国が特に重要と認めた問題の取り組みに対し、特に謝意を表す。執行委員会は、NEA が IFNEC の事務局として提供した支援について、特に感謝する。これに関して、執行委員会は、次の各位に対し深甚なる謝意を表す。

- NEA の IFNEC 事務局は、2017 年 6 月と 11 月の運営グループ会合、作業部会会合を成功裏に組織し、開催した。同じく同事務局は、IFNEC 参加国の意見に基づき、かつ、将来の方向性と戦略を踏まえた 2016 年の調査報告を実施した。また、NEA の事務局長ウィリアム・マグウッド氏は、IFNEC の活動に対して個人的にも尽力し、支援と教導の労を惜しまなかった。
- ルーマニア政府と基盤整備作業部会は、「資源と格差に係わるワークショップ」（核セキュリティに係わる企業側の視点、放射性廃棄物管理に対するステークホルダーの係わり）を共催した。
- エドワード・マクギネス氏の IFNEC 創設以来の特筆すべき教導。
- アラン・ブラウNSTAYN の燃料供給サービス作業部会に対するリーダーシップと貢献。

- フリアン・ガダノ氏の運営グループ議長の引き受け、IFNEC が新たに取り組むべき提案。
- 燃料供給サービス作業部会の共同議長シーン・タイソン氏、アドホック需給国関係グループ共同議長の進藤秀夫氏、ラファエル・グロッシ氏の新しいリーダーとしての意欲。
- 参加国は、自主的拠出金を提供することにより、IFNEC 事務局の円滑な運営を可能とし、作業部会共同議長に対しても、予算の範囲で多面的な分析、支援及び活動成果の提供を可能とした。参加国、オブザーバー国とオブザーバー機関は、IFNEC の活動に堅実に参加し、また同様な貢献として、執行委員会や他の会合を開催し、専門家をリーダー又は参加者として派遣し、あるいは、IFNEC の企画立案に時間とアイデアを提供した。

特に、執行委員会は、以下の事項について、その成果を認める。

- 基盤整備上の課題について、その基礎から長年にわたって携わり、原子力への新規参入国に解決策を提供した。
- 中・高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する多国間貯蔵の可能性及び技術性探求の継続的な取組

執行委員会は、IFNEC が優先的に取り組むべき活動を示すとともに、運営グループと作業部会が 2018 年に取り組むべき課題について、以下のとおり指針を示す。

- 運営グループは、その活動を調整して重複する活動を避け、作業部会間の相乗効果を高めるとともに、関係機関との連携を強化する。このため、作業部会間の TOR、事務局、更には IFNEC の運営形態や運営手続きを規定するアクション・プランの更新に努める。
- 執行委員会は、アドホックの需給国関係グループが TOR に示された課題に継続して取り組むため、その活動を翌年まで更新することを認める。
- 執行委員会は、燃料供給サービス作業部会の活動に進展があったことを認める。燃料供給サービス作業部会の共同議長は、執行委員会で示された参加国に資する核燃料サイクルのバックエンド問題に継続して注力し、参加国に有益な放射性廃棄物及び使用済燃料の管理問題に協力してアプローチする手法の探求に努めた。更に執行委員会は、同部会が引き続き多国間貯蔵構想及び各国の取り組むバックエンドにおけるデュアル・トラック・アプローチの発展に取り組むよう求める。燃料供給サービス作業部会は、2018年の重要なトピックを選定して、ワークショップや会議開催を検討することを推奨する。
- 基盤整備作業部会は、人材育成及び核規制など原子力に関する計画を安全かつ確実に実施するために必要な基盤整備を強化するため、重要な課題に取り組む必要がある。執行委員会は、基盤整備部会が、過去実施した核セキュリティ、原子炉の廃炉、損傷を受けた核施設の廃炉と修復、人材育成、ステークホルダー参加、小型原子炉、原子力安全及び緊急事態対応策の分野の業績を認める。執行委員会は、IAEA との協力を継続し、特に地域社会における原子力科学技術分野の議論や関心を高めようと努める世界の学生とプロジェクトを共催するよう奨励される。執行委員会は基盤整備部会が、新しい原子炉の技術に対して規制面のアプローチを取り扱う会合開催の試みを歓迎する。

- 燃料供給サービス作業部会、基盤整備作業部会及びアドホック需給国関係グループは、その活動にあたり、IAEA, OECD 及び OECD/NEA その他の適当な機関との協力を維持することが奨励される。
- 運営グループは、事務局の予算が任意的な拠出に負うという特性に鑑み、新規参加国への呼びかけを積極的に行い、IFNEC の活動を支える財政上の課題に応えることが奨励される。
- 運営グループは、作業部会の共同議長と協力して、原子力の国際協力に関わる重要なトピックを選定し、幅広くステークホルダーに係わるワークショップや会議を計画し開催することが奨励される。

執行委員会は、IFNEC 全参加国、オブザーバー国が 2018 年第 2/四半期に計画されている IFNEC の運営グループ会合、作業部会会合、更には 2018 年度第 4/四半期に予算承認を条件として日本で開催される執行委員会会合に積極的に、参加することを奨励する。